（郵便信書認可）　（本號六圖）　明治二十四年六月廿五日　（定價二錢）

時事新報

時事新報は一年三百六十五日一日も休刊無し

第三千六百一號　木曜日
明治廿四年六月廿五日
舊曆辛卯五月十八日（壬午）

	日出	月出	月入	日入
	午前四時二十七分	午後九時五十九分	午前七時八分	午後七時三十九分

（西曆一千八百九十一年）

時事新報定價
時事新報へ一年三百六十五日一日も休刊せず其代價
郵送料廣告料へ左ノ如シ
一枚二錢〇一箇年前金五十錢〇三箇月前金一圓五十錢〇六箇月前金三圓〇一箇年前金六圓
〇時事新報社より直接に郵便にて郵送スルモノ二部ヨリ右定價ノ外二箇月十五錢ノ郵送料ヲ申受ク

時事新報廣告料前金

一行五號活字廿四字詰	一日限	一月以上	六日以上	七日以上
一行ニ付	十二錢	十一錢	十錢	五厘

月曜日并に大祭祝日の翌日等他新聞紙の休刊日に限り時事新報配達の求めに應ず此場合には新報代價一箇月前金八錢にして地方に郵送する分は此外に郵便の實費を申受く可し

時事新報社へ報道に付

近來東京府下を始め各府縣に通信社なるものの起りて遠くより各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を塡塞するより各社同一の記事を掲ぐるなど寡かず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依囑せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ぜらるゝ方多きが如し爲めに今日まで行違ひを生したる場合も寡からず就て願ふは今後本社に記事論說を寄稿せんとせらるゝ方は直接に本社に向け發送せられたし

時事新報

筋書の趣向

彰義隊の碑前香烟絶へずして鼠小僧の墓上賽客多し弱を憐み奇を好ひは人間の通情にして演劇の作者が巧に其情を穿ち世間の喝采を博する所以なり蓋し演劇は一種の美術にして此中自から此中の趣味あり局外者の容易に喙を容る可きに非ざれども技術上の詮索は暫く別問題として單に世間の喝采を得る一點より觀察すれば作者の極意は時の人情に投ずるに外あらずして能く其情を穿つを以て趣向の最も巧あるものと云はざるを得ず今の世に傳はる演劇の筋書は多く德川時代の作にして其所謂時代物の中には全く歷史の事實を敷衍して之に演劇的の趣味を加へたる純粹淡泊のものも少なからざれど雖も十中の八九は當代間の出來事を仕組て之を鎌倉もしくは足利時代の事に附會し其年代人名よそ造へども政治の善惡人物の邪正みれを人々の心に訴へて歷々實跡を證す可し又世話物と稱するは市井間の瑣事即ち俠客義盜の類の事實を仕組みたるものにて時代人物は必ずしも問ふ所に非ずと雖も自から時の人口に膾炙して愉快に感じたる事實を附會したるものゝ如し因ふに二千年間歷史の事跡少おきに非ず又社會人事の繁多なる傳奇の種に乏しからずと雖も作者が特に其時代の事を附會して而も裡面に微妙の意味を寓したるは即ち時の人情を穿ちたるものにして德川の時代に於て時代物其他時弊を寓したる作意が世間の喝采を得たる所以なる可し抑も强を恐み弱を憐むは普通の人情にして此人情の赴く所に隨へば時の政府の權力圓滿にして當局者の得意限りなく俗吏小役人の輩に至るまで威權を逞ふするは決して愉快の事に非ず勿論其本心に於ては眞實不平を抱きて時の政府を云々せんなどは思も寄らざる所なれども唯その耳目に映響する所は情に於て不快の感おきを得ず即ち强を恐むの人情に外あらず作者の得意とする所は蓋し此邊にして暴君奸吏時を得て忠臣義僕の徒が一時、節に苦しむと雖も遂に志を遂するの狀を寫し又は亡國の遺孤遺臣が千辛萬苦の末、假令へ其志を遂げざるも死に臨んで萬丈の光炎を吐くの樣を述べて時代人物は異なりと雖も自から其當代の事に對照せしむれば人情みれを見て快と呼ばざるものあるを可らず又世話物に至りては單に奇を好むの情に投ずるに外ならずと雖も德川の盛時に當りては出版に別嚴重にして其間の悪幅甚しきのみならず時の士人あるものは往々その權力を誤用して平民を虐待するなきに非ず人情の不滿に堪へざる所なり然るに所謂俠客義盜の所行を見るに其言行頗る快活にして平民の爲めに氣を吐き差や人意を强ふするの觀あるが故に時の人情に於ては竊に其擧動を快とするの意味もおきに非ざる可し即ち時代物と云ひ又世話物と云ひ世間の喝采を博したる作者の趣向は何れも右の人情に投じて其技倆を逞ふしたるもの〻如し左れば今代に於ても趣向の巧あるを欲すれば先づ人情の赴く所を察するなと肝要おれども凡そ强を惡み弱を憐むの情は古今の別ある可らざるが故に作者の趣向は此邊に向て其技倆を見る可きのみ今や理論上の見解を別にして單に人情の黙より見れば東京府下の如きは三百年來德川幕政の下に其繁昌を維持して百萬の生民各その處に安んじ絶へて憂を知らざりしものが維新の一擧、不意に暴濤の變を見て衢家は沒落し名實は四散し留て餘に死するものあり其亡國の慘狀は聞くに忍びざる所にして今日に至りても上野、芝に前代の遺跡を訪ふものは自から昔を忍ぶの情なきを得ず即ち萬人の情を同ふする所にして此情の赴く所は即ち作者の材料を取る可き所あり例へば昨年新富劇に於て演じたる上野戰爭の如き其趣向は敢て新奇なるに非ず演劇としては非難の點も少なからざるみどおらんと雖も兎に角に一時の喝采を博したるは人情を得たるが爲めに外あらず之に反して遇般同壓にて興行したる京都騷動の事實の如き事は新ならざるに非ざると雖も其仕組の骨子は公武尊卑の大義名分論より今の政府の先驅を稱揚して頻りに德川の事を卑下するなど之を目して都下の人情に投ずるの趣向と云ふ可らず此一點に於ては作者の不通を惜まざるを得ず又俠客義盜などの世話物も世人の好奇心に投ずる一段に於ては從來の仕組にて差支おきが如くなれども今日は時勢も大に異なるが故に唯その奮發を襲ふのみにて少しも變化する所わらざるに於ては人情に適切なるみどを得べからず例へば彼の俠客義盜の所行の如きも往時の人情に於ては唯强を折き弱を扶くるの一事を以て快と爲したれども今日は社會の事情次第に變化して當に强者が弱者を壓するの弊おるのみならず貧富懸隔の勢漸く形を成して富者は益々富み貧者は益々貧に社會の下流は殺風景を極め天堂地獄の相違を現世の事相に顯はさんとするは正に目下の情態にして人情の最も切おる處おれば俠客義盜の所行なども此邊の事相に附會して時々理に其情を伸ぶるの趣向もわらば從來陳套の所作も更に生面を開きて今の人情に適し世間の喝采を博するみど疑ある可らず作者の最も注意を要する點おる可し我輩は固より社會政治の事に就て言ふに非ず又演劇の本旨に就て論ずるに非ず唯筋書の趣向に付き人情の黙より一種の觀察を下し數言を陳ずるに過ぎざるのみ

雜報

〇愛知縣下の土木　同縣下尾張國の北境を流るゝ木曾川は濃濃を爲すと共に水災を爲すみども亦大にして災害の及ぶ所尠からざるより去る明治二十一年國庫より三百萬圓を支出して治水の大工事を成すみどに決定したるが元來同縣下に屬する參州は山國にして尾州とは大に其の利害を異にするより時の縣知事勝間田稔氏は尾州に木曾川の大土木を起すと共に參州に道路改修の大工事を始め豐間の平衡を保たしめんとの企望にて右二大工事の爲めに合計八十三萬有餘圓を七箇年賦に徵收し同年度間に於て共に其の成工を見んとするの目的より臨時郡部縣會を開きしに其際兩州の議員中多少は互に相爭ひたる所ありたるも結局、原案の豫算額を合計六十八萬有餘圓（內尾の治水費四十一萬餘圓、參の道路改修費二十七萬餘圓）に修正して二大工事とも之を創始するみどに議決したり乃ち一方なる木曾川の治水工事は同年度より其の工事に取掛り今や既に其半に及びたりと雖も他の道路の改修は未だ其の工事に着手するみどを得ず云ふ其の次第は道路改修工事の設計たるや參州なる飯田、足助、伊奈、別所、田原、西尾、平坂の七街道を改修し以て大に北方諸州との交通を便利にし且つ彼我物產の出入を自在おらしめんとする一大工事にして其の費地改修すべき路線豫測の爲めに莫大の時日と經費とを要せしが右各道に當れる郡村の人民等は議れも改修工事の己れが居村に入らんみどを欲し各々縣廳に請願して此の間頗る蟠結せる事情あり、結局改修路線の豫測、飯田街道は十一路線、別所は八路線伊奈は四線、足助、田原、西尾は各々三線、平坂は一線通計三十路線の多きに岐れ該居民等も亦其の希望を達せんが爲めに私かに技師抔を雇ひ入れて各自に利害の計較を爲し其筋に提出したる意見書の如きも二十餘通の多きに上り互に相爭ふて止まざるにつき縣會議員中特に改修委員なる楷を撰擧して荷成其の得失の調査に從事せしめたりと雖も一方には去る二十一年度以降、豫算に基きて年々徵收し來りたる改修經費の金額既に積んで十數萬圓の上に出で且つ多端なる豫測も漸く其の成効を告げ今や七箇年の期限も既に其の迫年を經過せんとし復た等閑に附すべからざる者あるを以て親任縣知事岩村高俊氏は獨ての設計に基き今度編を七道改修の路線を一定せしめんが爲め去る二十日より更に臨時郡部縣會を開きしに彼の七道郡村の人民三百餘名は特に名古屋に出で來り日々東西に奔走して各自に其の希望を達せんと百方競爭中の由おるが同議會の意向は何れに歸着すべきや未だ知るべからざると云へり

〇代議士の候補者　尾張國第四撰擧區にして衆議院議員十二人あり兼て同區より撰擧せられ故ありて其の任を辭し去るに先ち同區の有志諸氏は其（現任郡部縣會議長）に就て告し且つ同郡の代議士森東塚氏に同樣の勸告を爲し東直ちに部員を撰擧地に派し之に照會したれども氏は（同縣會議長）に其の候補者中にも之を希望する者なき其の意向の如何を明言せず年宮田氏と競爭して第二點議員二松山義根氏（前同郡長）の如きも俱に自から出でゝを懷き各々應援の有志者は皆多少の强弱おるを免れず今屈指後任候補者として昨今屈指內藤、村上四氏の外に出でゝ

〇大坂城內に貯水池設置　大坂城內に凡十七萬圓計の相違あれ可く工費を省かんとて曩に出願したるも當時大山陸軍を指するの恐れありとて容就て其貯水池を大坂城內に

〇大坂城內の水道敷設　大坂の水道敷設も殆んど廢事の轉任に付き益々市民の なしと言ひ居りしに去る二後新舊兩知事が府廳に出頭衛氏を始め水道調査委員を向ひ從來拙者と諸君と熱心城內貯水池を許可せられざるの結果を見ざりしも城內て閣議に登り遂に許可せら氏に於て調査の成蹟を市會を經て實行あらんを望ひも西村知事の志を繼ぎ水道おるよし右に付翌二十二日內に至り兼て測量濟の貯水三日より臨時市會を開き綱しと

〇泰安號の難船　支那芝罘初旬同港の警備艦泰安に搭ため登州府津縣地方に赴きの沖合に碇泊し居りしに同艦に便あらざるを以て東方艦嶋に避けしが爾來一週間爲めに錨一挺錨數十丈を失深夜なりしを以て誰一人と より或は沈沒したるおらん電報を以て芝罘へ通知した 用は汽船廣濟を以て該艦搜時は中々の騷ぎおりしも該航し道台を驚せ無事芝罘港